

定期作況報告

(平成 27 年 6 月 20 日現在)
上川農業試験場天北支場

I 気象概況

5 月下旬から 6 月中旬までの気象は以下のように推移した。

5 月下旬：平均最高気温が 17.1℃（対平年比+3.4℃）、平均最低気温は 7.5℃（+2.3℃）といずれも平年より高かったため、平均気温は 12.6℃（+3.2℃）と平年より高かった。降水量は 15.0mm（64%）と平年よりやや少なかった。日照時間は 69.5 時間（121%）と平年よりやや長かった。

6 月上旬：平均最高気温が 13.7℃（対平年比-2.7℃）と平年より低く、平均最低気温が 7.1℃（-0.8℃）と平年よりやや低かったため、平均気温は 10.4℃（-1.5℃）と平年より低かった。降水量は 38.5mm（606%）と平年より多かった。日照時間は 18.0 時間（33%）と平年より短かった。

6 月中旬：平均最高気温が 17.5℃（対平年比+0.3℃）と平年並、平均最低気温は 9.1℃（-0.6℃）と平年よりやや低く、平均気温は 12.8℃（-0.3℃）と平年並であった。降水量は 1.5mm（6%）と平年より少なかった。日照時間は 56.4 時間（130%）と平年よりやや長かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の 3 旬の平均は 11.9℃（+0.4℃）と平年並であった。降水量の 3 旬の合計は 55.0mm（104%）と平年並であった。日照時間の 3 旬の合計は 143.9 時間（92%）と平年並であった。

4 月下旬から 6 月中旬の主気象要素の積算値は、平均気温が平年よりやや高く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並に推移している。

a. 季節表

月 旬	平均気温 (℃)			平均最高気温(℃)			平均最低気温(℃)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5 月 下	12.6	9.4	3.2	17.1	13.7	3.4	7.5	5.2	2.3
上	10.4	11.9	△1.5	13.7	16.4	△2.7	7.1	7.9	△0.8
6 月 中	12.8	13.1	△0.3	17.5	17.2	0.3	9.1	9.7	△0.6
3 旬平均または合計	11.9	11.5	0.4	16.1	15.8	0.3	7.9	7.6	0.3

月 旬	降水量 (mm)			降水日数 (日)			日照時間(h)			平均風速 (m/s)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
5 月 下	15.0	23.4	△8.4	6	4	2	69.5	57.3	12.2	2.7
上	38.5	6.4	32.1	6	2	4	18.0	55.0	△37.0	2.7
6 月 中	1.5	23.3	△21.8	1	4	△3	56.4	43.6	12.8	1.7
3 旬平均または合計	55.0	53.1	1.9	13	10	3	143.9	155.9	△12.0	3.0

注 1) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2) 平年値は前 10 か年の平均より上川農試天北支場作成。

3) 降水量、降水日数、日照時間の 3 旬平均欄は 3 旬の合計値。

4) △印は対平年値比減を示す。

5) 畑地温は測器のトラブルにより掲載しなかった。

b. 主要気象要素積算値（4 月 21 日～6 月 20 日）

	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	652	84	314
平年	565	120	305
比較	87	△36	9

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（1番草）

作況：不良

事由：出穂始は平年に比べて6日早く、1番草乾物収量は平年比74%と極めて少なかった。乾物率は平年より1.0%高かった。本年の1番草生育期間は平年に比べて気温が高く、降水量が少なく推移したため、出穂及び1番草の刈取時期が早まり、栄養生長の期間が短くなっている。そのため、乾物収量が低く、乾物率がやや高くなったと見られる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

出穂始（月・日）			収穫期（月・日）			収穫時草丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6.14	6.20	△ 6	6.18	6.23	△ 5	97	105	△ 8

生草収量（kg/10a）			乾物率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
2,441	3,469	△1,028	19.1	18.1	1.0	466	628	△162	74 %

注）平年値は前7か年のうち、平成20年（最豊年）及び平成25年（最凶年）を除いた5か年平均値。

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（2番草）

作況：やや不良

事由：乾物収量は平年比95%とやや低く、乾物率は3.0%高かった。これは前番草の節間伸長茎の割合が高かったため、刈取後の再生がやや劣ったこと、及び本番草も出穂茎及び節間伸長茎の割合が高く、乾物率が高まったことによると見られる。生育期間中の気温と降水量は変動が大きかったが、いずれも平均すると平年並であり、気象条件による生育への影響は小さいと見られる。

以上より、目下の作況はやや不良である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
53	49	4

生草収量（kg/10a）			乾物率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1,439	1,808	△369	19.8	16.8	3.0	285	300	△15	95 %

注）平年値は前7か年のうち、平成20年（最豊年）及び平成25年（最凶年）を除いた5か年平均値。